

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600421		
法人名	非特定営利活動法人 よりあいの会		
事業所名	グループホームよりあい		
所在地	日向市大字平岩8624-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和2年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設のない施設を目指している ・穏かにのんびりと自由に過ごしている ・臭いのない清潔な施設を目指している ・利用者の話を常に傾聴し前向き話に取り組んでいる ・口腔ケア、身体拘束に取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>リビングの窓の外には大きなウッドデッキがあり、その先には果樹が実っている。作物をホームの畑で栽培しており、季節ごとに旬の食材を取り入れた食事を楽しめる。毎食共に職員が交代で調理し、ときには下ごしらえを入居者と共に行って同じメニューを食べることで、生活の場を感じられる雰囲気がある。風通しにも配慮がされ、不快なおいを感じるような検討されている他、感染症対策にもなっている。ホームの介護理念は、毎年度ごとに現状と課題を基に職員間で共有し、取り組むことを明確にするように努めている。本人の言葉や表情、様子に加え家族との関係継続の為の手紙の記入など、本人本位やその人らしさに着目した対応を心がけている様子もみられた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末の3月に職員全員で考え作成している	年度ごとに、それまでの取り組みと、現在の課題、研修で学んだことを基に理念について職員間で検討している。今年度は入居者の思いや日々の気付きを大切にすることを新たに理念に取り入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係で計画したものの実行に到っていない	コロナ禍にあつて地域の催しが中止となったが、野菜の差し入れや園外散策時のあいさつなどを通して地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の家族より数件の相談があり支援の方法等をアドバイスしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで推進会議の開催が少ないが取り組んでいる事等の報告を手紙や電話などで知らせている	現在は書面での開催が主である。ホームの現状の報告と共に、問い合わせのあった要望について記載し対応方法の検討を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の計らいで連絡や現状の報告の時間をとっていただき協力関係を築いている	相談内容によっては、市の担当者が時間を作り、意見交換を行う機会がある。入居者の家族の要望に基づき、行政機関に繋げた事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初からの取り組みで身体拘束等のテキスト等で職員への周知徹底を行っている	本人の様子観察や言葉に留意しており、介護の方法を工夫することで、落ち着いた気持ちで過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることのないよう職員がお互いに注意し合い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とする人がいる場合には関係機関と相談し活用出来るよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族が納得、理解できるまで十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見要望が出た場合は速やかに職員間に伝達しそれを反映出来るようにしている	日頃から、入居者の言動に関する気付きを心がけている。家族が意見や要望が話しやすいように、月々の送付物や、電話での連絡を通して関係性の継続に向けて努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングを通して意見等を出す機会を設け反映するようにしている	毎月の職員会議では、それぞれの職員が発言できるように、管理者が司会を行い、配慮している。また、職員ごとの特性や勤務希望等にも耳を傾け、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、給与・労働時間等には配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員への研修等にはその機会を確保し資格取得や質の向上の為園内での研修も取り入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が可能な限り質の向上を目指して取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困っている事がみられる時には寄り添い身近な話題を持ちかけ信頼関係を築くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望に答えられるよう本人・家族と面談しゆっくりと話す機会を作るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と面談し何が必要なのか支援の見極めをし必要なサービスがあれば紹介することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に出来ることを増やしていくように出来ないことの支援のみをするようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切に家族も支援していただく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟・姉妹・親戚・知人・友人などの面会を多く持ち途切れないように連絡をとるなど支援している	可能な方には、家族に手紙を書く支援を行い、疎遠にならぬよう関係性の継続に努めている。家族からの反応として、誕生日にケーキが届いたり、喜びの声をホームに伝えるなど、関係継続に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合ったり、声かけ・見守りをしてくれる等安心出来る支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても連絡したり、手紙・電話などで情報入手したり、相談などの支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からお話を聞きより多くの思いや意向を把握し本人の思いや希望に沿うよう努めている 又、コミュニケーションがとれない利用者の方々は家族からの聞き取りや表情で把握している	コミュニケーションを大切にして、表情や言葉から思いに気付くようにしている。今年度は理念にもこの点を含めており、日常的に意識できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの基本情報を元に各職員が情報を共有して支援を行っている 又、コミュニケーションのとれる方はご本人の会話から情報を収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り・業務日誌・看護日誌・定期的なサービス担当者会議で職員は常に現状を把握している 又、毎日の健康チェックで状態を把握し変化を見逃さないよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者も参加し本人の思い等の意見を言える場を設けている 又、ご家族からの意見や意向を聞いている 定期的なサービス担当者会議を開き現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、本人との関わりを重視し、家族からの意見も得るように努めている。モニタリングも適切に行われているが、日常的な介護記録は時系列に記入されたものであり、計画に則した部分が分かりにくい。	生活の一日の流れが分かる記録ではあるが、介護計画に基づく実践の情報が分かりにくい。目標や支援内容を職員が意識する為にも、様式や記入方法の検討をお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録簿に経過観察記録で職員全員が情報を共有しながら支援を行い介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護と緊急時の対応に対する連携や他医療機関の受診同行などの柔軟な支援サービスを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用し地域の方々と馴染みの関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族のかかりつけ医を大切にしている 家族対応の受診もあり適切な医療を受けられるよう支援している	受診時に、健康状態や相談事項、その結果を「医療連携表」に記入し、必要な情報の伝達が相互に行われている。歯科医の往診もあり、適切な医療が受けれる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の情報や気づきを月・金に訪問看護師に伝え相談・助言もいただけるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院出来るよう常に病院関係者と連絡、情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向け、早い段階から本人・家族・関係機関と話し合いを持ちチームで支援している	本人と家族の意向を確認しながら、医療と連携して対応方法を検討している。入退院の際には情報交換を綿密に行い、方針を共有するように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故発生時のマニュアルを作成し職員に周知徹底し定期的に訓練し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練のマニュアルを作成し災害訓練を行っている	様々な状況に対応できるように訓練とシミュレーションを行っている。高台までの避難経路を実際に車椅子で移動した結果、道路の舗装状態が悪かったことを、区長を通じて行政に伝え、改善に繋げるなど、多角的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉掛けは本人のプライバシーを損ねることのないよう節度を持って対応している	本人の意向を大切にしつつ、生活場面にあった衣類や身なりになるように支援を行う。排泄などのデリケートな部分について、表現方法を本人に合わせて工夫したり、同性介護を検討するなど、人格の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け自己決定が出来る働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の優先を第一に考えその人らしくその日を過ごしてもらうよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみ、おしゃれには気をつけて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔馴染みの食材を取り入れることで食への楽しみを持ってもらっている	下ごしらえや、トレイ拭きなど、入居者ごとの特性に合わせて一緒に行っている。旬の食材として、ホームの畑の作物を活用したり、屋外で食事を行うなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の摂取量を把握し食の形態も考慮した支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援している 自力で口腔ケアが出来る方は確実に見守りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導と尿・便意のある利用者の排泄パターンをしっかり受け止め排泄の支援を行っている	羞恥心にも配慮し、できるだけトイレで排泄が行えるように支援を行っている。自立に向けて取り組み、改善した方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人一人の排便パターンをチェックし便秘予防の食事を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意思決定を重要し入浴がゆっくりリラックス出来るよう利用者に応じた支援をしている	午前・午後を問わず、本人の意向に合わせて入浴できるように支援している。入浴剤や茶の葉、ゆず湯など、日替わりで入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう寝具の調整や居室の照明等には特に気配りをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人が服薬している薬の用法・用量等については訪問看護と共に職員全員で周知徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔なじみのCDや歌を皆と一緒に歌って楽しみのある時間を過ごしたり、利用者の出来る役割を持って生きる喜びや自信に繋げている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外に出かける機会が少なかったがテラスや園庭を利用し外気浴を兼ねて支援している	大きなウッドデッキがあり、リビングから直接屋外に出ることができる。散歩では近隣に外出し、季節を感じることができる。これまで、みかん狩りや行楽施設への外出も行って来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は日頃金銭は所持していない 必要な時は立替で支援し家族に報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話すこともあり、家族との会話を楽しまれる 手紙が書ける利用者は手紙を書く支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子使用の利用者が増えたため日々掃除をし清潔な共有の場所を目指している	リビングルームには大きめの掃き出し窓があり、日当たりがよい。また風通しが良いように設計され、臭いにも配慮された作りとなっている。季節感を感じられる掲示物もあり、居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が自由に過ごせるよう自分の居場所の工夫をしている テーブルの配置も定期的に変えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室空間作りを家族と共に作ってもらっている	居室の出入り口には、入居者が自ら作成した暖簾などがあり、各々の個性が重視されている。部屋の向きによって、カーテンの色を変え、視覚的に心地よく感じられる工夫もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を活かして「出来ること」の支援、「わかること」の支援を行っている		